

## 書いた人を映し出す鏡

国語（日本語）は難しいけどおもしろい、と私は考えています。自分の専門が国語だから言うわけではありません。他の言語と比較できるほど、語学に堪能（たんのう）なわけではありません。したがって、これから書くことは私個人の勝手な見解であって、「そういうふうに見える人もいるのか」程度に軽く読んでください。

五時間目に今年度初の研究授業がありました。二年A組の国語の授業でした。I教諭の丁寧な進め方で、生徒たちは意欲的に取り組みました。小学校からこれまでに身に付けた力が十分に発揮されていて、注目すべき発言にあふれた、素敵な授業でした。

扱った教材は「クマゼミ増加の原因を探る」という説明的文章。タイトルからも分かるように、クマゼミが増えた原因を六年間も求め続けた結果、得られた結論が書かれています。筆者は昆虫学者。学者ならではの内容であり、書き方も実に簡潔明瞭です。思いついたままにドラドラ書く私とは大違いです。学者ではない私には到底こういう文章は書けません。

しかし、ここが国語（日本語の）おもしろさの一つだと私は考えています。学者は学者としての内容を、学者としての書き方で書き綴（つづ）ります。つまり、文章を読むと、その書いた人の生き方や考え方、人となりが見えてくるのです。六年間クマゼミを追い続けてきた情熱家としての筆者。解明するため筋道立てて考え、それを文章に見事に表現できる学者としての筆者。文章はまるで書いた人を映す鏡のようです。

私はアイドルに興味がない人間ですが、アイドルと呼ばれる一人の若い女性が気になっています。もちろん変な意味ではないですよ。彼女については以前もどこかで書きました。今も相変わらず興味は続いています。

その女性はSKE48の須田亜香里さん。アイドルの中でも、ベテランの域に達した彼女ですが、歌やダンスではなく、彼女の書く文章を私は心待ちにしています。

それは、毎週日曜日の中日新聞の東濃版に「てくてく歩いてく」というタイトルで載っている彼女のエッセイです。若者としての目線で自分のことや周りのことをしっかりと見て深く考えていることがよくわかります。使う言葉や言い回しも、若者にしては豊かです。須田亜香里という女性が、短い文章の中に見事に表現されているように私には思えます。その分、私は会ったことのない彼女を身近に感じているのかもしれない。

文章は書いた人を映し出す鏡だと言えます。携帯では「なりすまし」が結構あるようですが、こういう文章は真正銘の本人が書いています。そのままを映す鏡のように……。私は読み手にどのように映っているのかな。

（五月二十四日記）